

運動疫学研究 特集企画

「子どもを中心としたライフステージと運動疫学」の趣旨と論文投稿の呼びかけ

担当編集委員

安藤大輔（山梨大学大学院総合研究部）

鎌田真光（東京大学大学院医学系研究科）

原田和弘（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

■趣旨

運動・身体活動に親しむことは、子どもの健全な発育発達に不可欠である（日本学術会議，2008「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて－成育空間の課題と提言－」等）。しかし、The 2018 Japan Report Card on Physical Activity for Children and Youth※によると、我が国の子どもの運動・身体活動の実施状況は、必ずしも望ましい水準に達していない上に、その根拠となる統計も十分に整備されていないのが現状である。このような現状を好転させ、子どもの運動・身体活動の普及促進を進めていくためには、子どもを対象とした運動疫学研究、すなわち、子どもの運動・身体活動が健康に及ぼす影響の解明や、子どもの運動・身体活動の評価方法の標準化、子どもの運動・身体活動量を高める介入手法の開発などに関する研究が重要な役割を果たす。

本誌でも、これまで、子どもを対象とした多くの運動疫学論文を掲載してきた。しかし、子どもを対象とした運動疫学研究は、未解決の課題が山積している。関連領域の専門誌においても類似したテーマを扱った論文が掲載されているが、各種バイアスの考慮がなされていないなど、疫学的手法の普及が進んでいない現状もある。そのため、子どもを対象とした運動疫学研究をより一層、推進させていく必要がある。

そこで本特集では、「子どもを中心としたライフステージと運動疫学」というテーマを設定し、子どもの身体活動促進に関する研究や取り組みの参考になるような論文を募集する。

※Active Healthy Kids Japan.

<http://activekids.jp/wp-content/uploads/2018/11/84b45ba456114b65b934a7f2c39cba4c.pdf>

■募集論文の要件（例）

- ✓ 生まれ月と各ライフステージにおける体力・身体活動量に関する論文
- ✓ 体力・身体活動量のライフステージ間のトラッキング（持ち越し効果）等を扱った論文
- ✓ 家庭の社会経済的状況と子ども（大学生含。以下同様）の体力、身体活動量に関する論文
- ✓ 子どもの健康問題と体力、運動・身体活動との関係を扱った論文
- ✓ 子どもの体力や運動・身体活動の評価方法に関する論文
- ✓ 子どもの体力向上策や、運動・身体活動の促進施策の効果を評価した論文
- ✓ 研究デザイン（記述、横断、コホート、介入等）は問わない

■募集論文の種別

- ✓ 原則として、一次データを含む原著論文とする。
- ✓ ただし、当該トピックの学術動向の総括と、それを俯瞰した洞察や考察、展望を含む総説論文（叙述的、系統的）や、公開データの2次分析により新たな洞察を得る原著論文も可。
- ✓ カバーページに“本原稿は特集企画「子どもを中心としたライフステージと運動疫学」の一環で投稿している”旨を記載すること。

■査読の有無

- ✓ 通常の査読付き論文と同様に査読に付すため、掲載を保証するものではない。
- ✓ 過去2年間の実績では採択率は9割程度である。

■募集時期

- ✓ 2018年12月1日～2019年12月31日

■論文掲載時期

- ✓ 掲載決定後、他の原稿の採択状況を考慮しつつ可及的速やかに出版される。
- ✓ 本特集にかかる論文は遅くとも2020年3月発行の本誌第22巻1号までに掲載される。

■問い合わせ・投稿

- ✓ 日本運動疫学会誌「運動疫学研究」編集委員会 担当編集委員（安藤・鎌田・原田）
E-mail: jaee.journal@gmail.com
- ✓ 原稿が特集の趣旨に合致するか否かについては、遠慮なくお問い合わせください。
- ✓ 投稿に際して、著者のうち日本運動疫学会の会員を一人以上含む必要があります。詳細は投稿規定 (<http://jaee.umin.jp/doc/kitei201608.pdf>) をご確認ください。

（補足）

■本誌「運動疫学研究」に論文を掲載するメリット

- ✓ 迅速かつ丁寧で建設的な査読
投稿から1st decisionまでの平均日数（過去1年間）は14.5日（範囲：8～23日）。
2018年4月1日現在（査読付き論文に限る）
- ✓ ゴールドオープンアクセス（出版時点からの完全オープンアクセス）
- ✓ 出版費用（投稿料や掲載料）は無料
- ✓ 日本運動疫学会は日本学術会議協力学術研究団体に指定されており、その会誌「運動疫学研究」に掲載される論文は、多くの大学院で学位審査等の要件として認められる。
- ✓ 本誌「運動疫学研究」は2019年3月にJ-STAGEへの登載が決定しており、掲載論文のアクセス機会の拡大が期待できる。
- ✓ J-STAGE登載に伴い、国際的に広く普及している恒久識別子 digital object identifier (DOI) が、掲載論文に自動的に付与される。そのため、掲載論文の追跡可能性も高い。